

2026

しがの生協

No.204

TOPICS
トピックス

2026年新年賀詞交歓会

2026年1月15日(木)
琵琶湖ホテル 瑠璃



2026年新年賀詞交歓会

「2026年新年賀詞交歓会」が1月15日(木)、大津市の琵琶湖ホテルで開催され、69人のみなさまにご臨席いただきました。昨年は、国連が定めた「国際協同組合年」として、協同組合の価値を改めて確認する一年となりました。今年は、その協同の輪をさらに広げ、地域社会での実践へとつなげていく年です。協同組合への期待が高まる中、本交流会は、協同組合の「つながり」と「さらなる飛躍」をめざす場となりました。



開会挨拶



滋賀県生活協同組合連合会
代表理事長
白石 一夫

わたしたちは、地域、大学、職域、住宅、共済、労働と、力は小さくても協同の力を発揮しようと集まった連合会です。組合員48万人、滋賀県60万世帯の8割の方々、協同の輪に入ってください。

昨年は、戦後80年の節目にIYC協議会で「被爆ピアノによるコンサート」を行いました。衆参両院で「国際協同組合年に当たり協同組合の振興を図る決議」を採択いただきました。決議文には「ICA声明によって定められた協同組合の定義、価値及び原則を尊重する」という一文が強調されています。また、1月には、国連総会本会議で、10年ごとに国際協同組合年が設けられることが圧倒的賛成多数で承認されました。

世界を見ると、「今だけ、金だけ、自分だけ」という風潮も心配です。

だからこそ、「協同の価値」が輝きを見せているように思います。協同組合の実績や、目指すものを認めていただき、次の10年、その次の10年もと期待していただいている。わたしたちは、「正直、公開、社会的責任、他人への配慮」という倫理的価値をしっかりと認識し、協同組合を前進していく決意です。

乾杯ご発声



IYC記念滋賀県協同組合協議会会長
滋賀県立大学名誉教授
小池 恒男様

年頭に強く思う二つの点について、お話を申し上げます。

一点目は資本主義の行き詰まりです。世界中に広がっている「格差」と「分断社会」これをいかに回避するか。やらなければならないことは3点。①労働分配率(賃金)を上げる。②中小企業の賃上げのために、下請け条件の改善。③日本経済活発化のために、国内投資を増やす。

二点目は、人類にとって最悪の「戦争」を回避すること。やってはいけないことが3点。①軍事費のさらなる拡大。②被爆国として「非核三原則の見直し」。③「武器輸出の無制限の解禁」です。

いま世界には196の国がありますが、侵略をしているのは3カ国(ロシア、イスラエル、アメリカ)だけです。そして中国を念頭に、今まで政府が言い続けてきた「力による現状変更を認めない」と訴える。

軍事大国にならず、貧富の格差をなくし、豊かな経済生活を営み、魅力ある社会を持続的、安定的に維持していけることを祈願いたしまして乾杯の挨拶とさせていただきます。

ご来賓ご挨拶



滋賀県知事
三日月 大造様

米国のベネズエラ侵攻、急な国会解散、まだ1月15日なのに、ずいぶん月日が流れているように思います。生協連のみなさまには、食の安全、消費者問題、平和、環境、福祉、住宅、さまざまな分野でご尽力いただき、心から感謝を申し上げます。また、「高齢者の見守り」や、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」でのオフィシャルスポンサーやサポーターなど、県民のためにもお力添

えいただいています。

「一つひとつの命」を大切にする生協さんですが、わたしたちも、「ともいき ともうみ ともそだて ともいきる健康しが」を標語に、多文化共生を呼びかけています。また、一昨年「世界湖沼の日」が定められました。「母なる湖 琵琶湖」は、わたしたちが一つになれる大切な「財産」、地球環境を見る「窓」、くらしや生き方を見直す「鏡」です。大事にしていきたいと思っています。

国際協同組合年が10年ごとに開催されます。協同の大切さが世界で尊ばれている証拠です。滋賀県内の活動がさらに充実発展いたしますことをお祈り申し上げ、一緒に頑張ってまいりたいと思います。



衆議院議員
大岡 敏孝様

2022年に労働者協同組合法が施行されました。私も発起人の一人として、世界最大の協同組合モントラゴンを視察しました。働く人が企業の所有者になり、経営の意思決定にも参画する。「行き過ぎた資本主義」にならないための一つの理想ではあると思います。

物価高騰の原因は、円安、輸入物価上昇、人手不足、賃金上昇、米価の上昇など、いろんなケースが複雑に絡まっています。当面「直接給付」で急場をしのぎますが、根源的には過度な円安をけん制する財政の健全化が必要です。そうしたことを組み合わせて、もう一度力強い日本をつくっていききたいと思っています。

また、平和をこよなく愛し、戦争を起こさない体制も責任をもってつくっていききたいと思っています。



衆議院議員
武村 展英様

昨年は「国際協同組合年」でした。衆参両院全会一致で、「協同組合振興のための決議」を成立できました。そして今年は、日本生活協同組合連合会の創立75周年。戦後の荒廃の中どんな思いで協同組合をつくられたのか、今一度先人のご苦勞に思いを馳せたいと思います。

最近滋賀県でも、地域ネットワークの維持が厳しい状況です。「新しい資本主義」の話もありましたが、過疎地での生活物資の販売など非営利組織でなければできないユニバーサルサービスの提供で、県民の生活をお守りいただいていることに感謝申し上げます。

11月、未然防災から復興に資する防災庁が設置されます。注目いただければと思います。

中締め挨拶



衆議院議員
北野 裕子様

生協の理念は、わたくしの政治理念と大変似ております。

わたしは、地域のつながりが希薄化する中、何をしなければいけないのかを、地域のみなさまの声を聴きながら、国政に反映してまいりました。そのお手本が、地域のために活動する生協さんなんです。

地域の声を国政に反映し、子どもたちのために、国土保全も、食の安全も、みなさんと一緒に守っていければと思います。

新年力強くものが動いてありますが、先人から受け継いだこの日本、しっかりと次の世代につないでいきたいと思っています。



滋賀県生活協同組合連合会
専務理事
森井 徹

少子高齢化、温暖化をはじめ、経験したことのない社会課題が、想定以上のスピードで顕在化しております。わたしたちが掲げる「誰もが平和で安心して暮らせる社会」の未来は、みなさんとともに考え、学び、手を取り合って築き上げる、地域共生社会につながる道だと考えております。

今後10年ごとに「国際協同組合年」が設けられることとなりました。期待の大きさをひしひしと感じています。協同組合の「価値」をみなさんと共有しながら、日々事業、活動を進めてまいりたいと思いますので、ご支援、お力をお貸しいただければ幸いです。

しが健康医療生活協同組合

誰もが安心して暮らせる まちづくりを目指す

しが健康医療生協は、栗東市と湖南市で医療・福祉・介護事業を展開しています。診療所では一般診療に加え、健康診断や各種検査、在宅医療に力を入れ、訪問看護や訪問介護、デイサービス、リハビリ、居宅介護支援など幅広いサービスを提供しています。こうせい駅前診療所には病児・病後児保育室『かんがるー』もあり、医療と介護・福祉の連携を進めています。組合員活動は「班会」を中心に健康チェックや運動教室、サークル活動が盛んで、健康まつりや文化祭、子ども食堂、宿題やろう会など地域に根ざした取り組みも続けます。さらに市の助成を受けたサロン事業『来て



やカフェ』『にじの家サロン』では、認知症カフェとして毎週木曜にランチを提供し、啓発や交流の場を広げています。

現在、こびらい生協診療所の建替え運動に取り組み、組合員1億円運動を掲げて全組合員を訪問し、声を聴きながら新しい医療生協をつくっていきます。いのちと平和を守り、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

滋賀県職員生活協同組合

地産地消の取り組み

県職員生協は、昼食時のパン・弁当、菓子・飲料を中心とした売店事業をはじめ、安全で安心な食事を提供する食堂の運営、名刺印刷や宅急便の取り次ぎ、保険事業など、多岐にわたるサービスを展開しています。また、「地産地消」や「県産品の利用拡大」といった県との連携事業にも積極的に取り組み、組合員にとってだけでなく、県からも必要とされる存在になることを目指しています。

県庁売店では、毎週木曜日に県立農業大学の学生が栽培した野菜を販売しています。きゅうり、トマト、なす、たまねぎ、キャベツ、ブロッコリー、カボチャなど、当日に収穫された新鮮な野菜を仕入れ、販売開始の正午には多くの組合員が購入し、すぐに完売するほどの人気です。

また、果物の収穫期には、県内の果樹農園や県



農業技術振興センターからメロン、スイカ、ぶどう、梨などを仕入れ販売し、季節ごとの味覚を楽しんでいただいています。県立高校の生徒が飼育・採取した鶏卵も取り扱い、幅広く地元産品を提供しています。添付の写真は、毎週の野菜販売に加え、農業大学のシクラメンや高島の富有柿を販売している様子です。

今後とも、県職員のくらしと健康を守り、生きがいを育むことを目指し、地元の魅力的な産品をお届けすることで福利厚生の一翼を担ってまいります。

11月8日(土)

響け! ピアノの音色「ピースコンサート」を開催しました

県内の協同組合との合同で、被ばくピアノによるピースコンサートを草津市立アミカホールにて開催し、209人が参加しました。

ピアノは、80年前の1945年8月6日広島市の爆心地から約3km離れた住宅で被災し、爆風や熱線に耐え抜いたものです。広島市在住のピアノ調律師 矢川光則さんが、ピアノ所有者からピアノを託され、ご自身も被爆2世として、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えていくことを使命に2001年より活動をされています。

矢川さんから被ばくピアノと平和への想いをお話いただき、ピアニスト佐藤奈菜さんによる演奏と、シャンソン歌手七瀬紫さんの歌唱が会場に響きわたりました。伊藤孝子さんには戦争の記憶の語

り部さんの話を朗読いただきました。最後に、来場者全員で東日本大震災復興支援ソング『花は咲く』と『アンパンマンのマーチ』を合唱し、みんなで平和を祈りました。

この平和の活動は、戦争の記憶を風化させず、次の世代へ平和のメッセージを伝える貴重な取り組みです。音楽や体験を通じて「平和とは何か」を考える機会として継続していきます。



ボーカル:七瀬 紫さん
ピアノ演奏:佐藤 奈菜さん



ピアノ調律師
矢川 光則さん



朗読
伊藤 孝子さん

被爆・戦後80年企画

12月8日(月)

「核兵器をなくすために活動する若者たち、その想い」の講演



コーディネーター
浅野 英男さん

滋賀県立大学において「核兵器をなくすために活動する若者たち、その想い」と題した講演会を開催しました。講師には、核兵器をなくす日本キャンペーンのコーディネーター浅野英男さんを迎え、40名が参加しました。



浅野さんからは、戦争や被爆を経験していない若者視点で核兵器の使用の可能性、核抑止による莫大な費用、環境負荷、現在進行形の核被害など、様々な視点から核兵器廃絶の意義について学ぶことができました。浅野さんのような次世代が核兵器廃絶への未来に向けて精力的に活動されていることを頼もしく感じるとともに、私た

ちわたしができることへの具体的でわかりやすい助言も頂き、「学んだことを自分事として行動に活かします」との声も多く頂きました。

今後も過去の歴史と、現在進行形の事実との両側面から学ぶ視点を持ち、若者世代と一緒に「平和」「核兵器」を考える機会を提供していきます。

11月12～13日 滋賀県生協連役員研修

第45期役員研修は石川県生協連および中能登町社会福祉協議会を訪問し、能登半島地震の発災時の対応や被災地への支援について学びました。

石川県生協連からはコープ被災地支援センターの設置や生活物資の提供、被災地組合員の安否確認、継続的な支援活動の報告がありました。中能登町社会福祉協議会では発災当日から避難所の立ち上げや避難者への支援、災害ボランティアセンターの運営、被災者の見守り活動など、地域福祉の視点から迅速かつ継続的な対応が印象的でした。

「まさかこのような災害が発生するとは」の驚きと、「災害発生時は、マニュアル通りに動けない、どのように判断したらよいか分からないことが多かった」とのことでした。

今回の研修を通じて予測不能な災害への備えとして柔軟な判断力と現場での即応力が不



石川県生活協同組合連合会



中能登町社会福祉協議会

可欠であることを再認識しました。行政・会員生協・日本生協連などの連携体制、被災者ニーズに応じた段階的な支援など、マニュアルの見直しを行っていきます。一人ひとりが災害への備えは他人事ではなく、自分事として捉えられるよう、引き続き情報発信や啓発活動に取り組んでいきます。

能登半島地震被災地支援の活動

日本生協連の「石川各市町社会福祉協議会 & 全国生協の協働企画」で、滋賀県生協連は中能登町社会福祉協議会を通じて、被災された方々に滋賀のぬくもりをお届けしました。

仮設住宅やみなし仮設での生活を余儀なくされている方々が多い中、9月21日(日)同町で開催された「中能登町福祉のつどい」の被災者相談ブースで「甲賀のお茶(玄米茶)」をお渡しいただきました。滋賀の香りとともに、ほっと一息つける時間をお届けできればとの想いを込めました。

また11月13日(木)には、社会福祉協議会の見守り活動にと、滋賀・琵琶湖にちなんだお菓子の詰め合わせ、会員生協からのメッセージカード、手作りの鶴のストラップを贈りました。

被災地の復興には時間がかかります。滋賀県生協連は中能登町をはじめとする能登の被



(右) 中能登町社協 杉本会長
(左) 滋賀県生協連 白石会長



見守り活動時に、お菓子詰め合わせを渡していただきました

災地の皆さんに寄り添い、地域を越えたつながりと支え合いを大切に、息の長い支援を続けていきます。

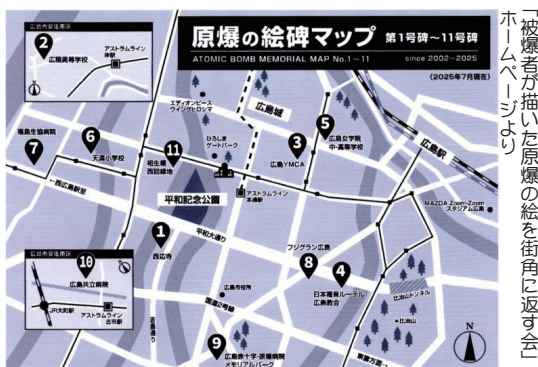
「原爆の絵碑」11号碑 ～被爆80年 被爆者の思いを街角に～

広島市内には、被爆者が自らの体験を絵に託し、その絵を陶板にして建立した「絵碑」があります。そこには1945年8月6日の惨状と、平和への願いが込められています。

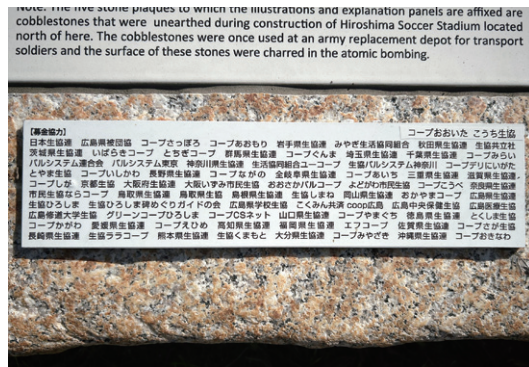
被爆80年の節目の年、第11号碑が建立されました。滋賀県生協連は、この取り組みに賛同し、被爆の悲惨さを次の世代に伝えるために絵碑の建立募金に協力しました。被爆の悲惨さを忘れず、核兵器のない世界を願う被爆者の声を未来へとつなげていくために、これからも平和の取り組みを続けていきます。



第11号碑(広島市中区本川町相生橋西詰緑地)



「被爆者が描いた原爆の絵を街角に返す会」
ホームページより



10月11～12日

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2025滋賀医科大学」に参加

リレー・フォー・ライフは1985年に米国で始まったチャリティイベント。「がん患者は24時間、がんと向き合っている」という想いを共有し、がん患者や支えるご家族、支援者らが交代で24時間ともに歩き、語らい、生きる勇気や希望を生み出したいという活動です。滋賀県生協連は「いのちの尊さや大切さ」を考える機会として協賛し、会員生協からの励ましのメッセージをルミナリエバックに添えて応援しました。

会場では、大学の中庭を囲むようにルミナリエバックが並べられ、夜は一つ一つに灯がともされました。日本では2人に1人ががんに罹る時代。多くの闘病者が医療の進歩により質の高い治療を受けられることを願うとともに、日々支えているご家族に想いを寄せて歩きました。



11月7日(金) 2025年度第2回近畿地区府県連協議会に参加

近畿地区生協府県連協議会では、それぞれの府県連会員生協や地域の課題に寄り添いながら、安全・安心な地域社会の実現を目指し、定期的に意見交換会を開催しています。各府県連や団体から協同組合間の学びや交流の場づくり、文化・平和活動、震災支援活動、生協理事・監事研修、消費者支援、地域共生など多彩な活動の報告がありました。滋賀県生協連も近畿地区の生協連や団体の活動を参考にして、会員生協・地域の声に耳を傾け、協同の力で持続可能な未来を拓けるよう活動していきます。



11月10日(月) 2025年度滋賀県行政との懇談会の開催

滋賀県生協連では、生協と行政の連携強化と相互理解を目的に、毎年県行政と懇談会を開催しています。今年度も県民のくらしの向上をめざし、食の安全・安心と安定供給、医療・介護施設への支援・処遇改善、安全な町づくり、学生支援制度の充実などの要望を提出し、県担当課の回答をもとに意見交換を行いました。県総合企画部県民活動生活課より3名、生協連からは理事11名が出席し、会員生協の組合員の声をもとに、率直な意見交換、一緒に考える機会になりました。また、県行政と生協連双方の重点課題や取り組みを報告し相互の理解を深める機会にもなりました。今後



も滋賀県生協連は、県行政との対話を重ねながら、組合員の声を届け、より良いくらしの実現に向けて努めていきます。

滋賀県生協連からの お知らせ

『防災・減災と、災害時のごはんづくり』学習

大きな災害時には水や電気、ガスが使えなくなる恐れがあります。その備えとして、食品や衛生用品の備蓄や、非常時の食事づくりを学びます。

日時 2026年3月17日(火)10時～12時

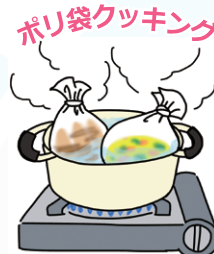
場所 平野コミュニティーセンター
大津市馬場三丁目15-45

参加費 無料

申込期日 3月6日まで

定員
30名
(先着順)

参加申し込み
二次元コード



お申し込み・お問い合わせ

滋賀県生協連 TEL:077-518-0072まで

